

# 湘北短期大学 高大連携通信 Vol.13

平成29年  
3月13日(月)発行

湘北短期大学  
リベラルアーツセンター  
E-mail: LAC@shohoku.ac.jp  
TEL: 046-247-3131  
FAX: 046-247-3667

湘北ナビットくん

寒い冬に負けないホットな議論

リベラルアーツセンター長 小棹理子



## 第8 回高大連携教育研究会

「アクティブ・ラーニング」の多面的な

活用法と成果、評価」

日時 平成29年2月7日(火)

15時00分～17時00分

会場 湘北短期大学図書館

アクティブラーニングスペース

内容

(1) 事例報告①

「携帯アプリケーション開発」授業の実施と成果

(総合ビジネス・情報学科 内海 太祐)

(2) 事例報告②

「地域密着型プロジェクト」授業の実施と評価

(総合ビジネス・情報学科 高嶋 章雄)

(3) 意見交換とまとめ

出席者

連携校7校より7名、本学教職員7名、計14名

前回の教育研究会(平成28年9月5日開催)のアンケートに対する回答からも関心の高さが伺えた。「アクティブ・ラーニング(ALE)」と評価の方法。今回はALE型授業の方法、その授業を実施したことにより得られる成果、そして受講者の成績評価を議論する場となりました。総合ビジネス・情報学科の教員2名から話題提供がありました。

### 「携帯アプリケーション開発」授業の実施と成果

情報系に進む学生にとって必須の能力を身につけさせるためにはどうすれば良いのか。「情報」が陳腐化する速度は他分野の比較にならないため、単に情報を得ただけでは役に立たない。必要な「知識」をいかに①身に付けるか、②創り出すか、③伝えるか、④「生きた情報」に変えるか。この4つの力を理解することが肝要であるため、情報系の授業では演習が大半となっており、講義・説明を行ったのち、これらを活用した課題にグループで取り組む形態となっている。すなわち、基礎知識を獲得し、必要な追加情報を探索し、グループで協働して課題を

完成し、成果を発表する、という枠組みの中で学生は半年間鍛えられることになる。

授業が進むにしたがって、学生は、(1) 技術的知識を自ら獲得するようになり、(2) 授業内では完結しないので日程調整を行い、(3) 情報を共有し、

(4) 役割分担の困難さを理解し、(5) サービスを提供することの大変さに気づく。これらはIT系アプリケーションを開発する際の経験知として蓄積して行く。15回の授業のうち、基礎知識を与えるのは8回まで、9回以降は3人一組のグループで企画立案し、アプリを作成する。12回は中間発表、15回が発表練習、試験の代わりに外部者も招いた発表会でプレゼンテーションを行う。

個々の学生の成績評価は、「課題や小テストなどの知識・スキル確認」が2/3、「成果物と進捗報告」が1/3の合点で決定する。グループ作業の中で個人を評価するのは難しいが、それぞれの役割に応じて5段階評価を行っている。

### 「地域密着型プロジェクト」授業の実施と評価

PBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)の例として2つの授業が紹介された。「WEBサイトデザイン」は、厚木商工会議所との連携によるサービスラーニング授業でもあり、厚木市近辺の事業所のウェブサイトを3、4名のグループで制作するため、ウェブ制作技術を学んだ学生が対象となっている。グループごとにクライアントを決定し、先方に向いてヒアリング、結果分析、コンテンツ洗い出しを行



う。企画書と仕様書を制作したのち取材を行い、ウェブサイトを制作する。制作発表会・納品式にて成果をプレゼンし、納品するため、成果物重視の評価となる。一方、「勝手に宣伝プロジェクト(ゼミナール)」では、厚木近辺の実店舗のチラシを制作するが、学科の全フールドの学生が対象となっている。こちらも3、4名のグループで制作にあたるが、プロジェクト管理の理解とグループワーク経験による学生の成長プロセスが重視される。

両授業で共通して行われるのが役割分担 (Work Breakdown Structure) とガント図を用いたスケジューリングである。また、どちらも共通授業アンケートによる自己評価を行っている。これに加えて「WEBサイトデザイン」では相互評価とプロによる審査(機能、デザイン、技術、プレゼン)がある。「勝手に宣伝プロジェクト」では、コンセプトマップ(プロセスの理解度チェック)、グループワークメモ(時間外の作業確認)、ルーブリック(要望の把握と解決度合い)による評価を行っている。

今後の課題としては、①クライアントの意識や協力体制による差異をどう評価するか、②表面に出ない作業をどう評価するか、③チームビルディングをどうするか、④評価手法(ルーブリック)をどうするか、などがあげられる。

【さらに詳しく知りたい方へ】

講演者の発表資料はホームページで公開しています

© SCOPP 湘北カレッジ・パス・プログラム

<http://scopp.shohoku.ac.jp/>

両事例ともに授業外で自主的に学びを行わせるのがALの真髄であることを感じさせられました。その一方でチームビルディングの難しさが挙げられましたが、3人までのグループであれば、教員の目でそれぞれの貢献度がチェック可能であるとの示唆も得られました。

今回もまた時間オーバーとなりましたが、意見交換の場では、ALの取り組み度合いは高校により異なること、単にALのさまざまな手法(グループワーク、ジグソー法、ディベートなど)を取り入れるだけでは主体性をはぐくむことが難しいこと、地域と連携して歴史を発信できるような授業が考えられること、まず基本的な知識を身につけることが必要なのでそれぞれの教育段階で学びの方法が異なってもよいのではないかと思われること、など種々の観点から議論がなされました。これらを踏まえ、次回研究会のテーマとして「基礎学力」を取り上げることになりました。

### 平成29年度入学者向け

### コミュニケーションリテラシー開講

#### 日程

- A 平成29年2月6日～9日
- B 平成29年2月7日～13日
- C 平成29年3月21日～24日
- D 平成29年3月22日～28日

※A～D、各期間内で4日間に亘り開講

#### 開催概要

湘北短期大学リベラルアーツセンターでは、入学予定者を対象とし、入学前授業として「コミュニケーションリテラシー」を開講しております。大学や社会で必要とされるコミュニケーション能力を発展させることを目的としたものです。全15講(入学前12講、入学後3講/eラーニング)を通じ、一つのテーマに沿

ってグループでまとめあげるプロジェクトを体験します。これまで当科目を受講した入学予定者のアンケートでは、「高校と短大での勉強の違いがなんとなく分かった」「入学前に友人ができ、短大の施設や先生方を知ることができた」「入学後、積極的に短大生活に取り組みたいと思った」との結果が得られました。また、「当科目を人に勧めますか?」という質問には、今回AB日程の受講生計約200名のうち92%の学生が「はい」と答えています。

### 「コミュニケーションリテラシー」

AB日程(2月6日～13日実施) 授業風景

【1日目】ノンバーバルコミュニケーションの重要性



【2日目】図書館の活用と検索、コミュニケーションの基本



【4日目】問題解決、プレゼンテーション



【3日目】問題の発見・情報の分析、MS-Office群の活用

